

体験活動推進プロジェクト 防災キャンプ推進事業

宮城県防災キャンプ推進事業

宮城県

【事業のポイント】

宮城県防災キャンプ推進事業の初年度となる平成24年度は、たくましく生き抜く青少年の育成に主眼をおいた体験的な防災教育プログラムの開発と次年度以降の県としてのノウハウを蓄積するため、県立の自然の家(松島・志津川)を実施主体として事業を実施した。

2年目となる今年度は、平成24年度で得られた成果とノウハウをもとに、地域レベルでの防災教育の普及・啓発をねらいに、災害時に避難所となる場合が多い学校を実施場所として地域が連携した形で防災キャンプを行うこととした。

実施主体を各小学校区で活動するおやじの会とすることにより、学童期の子どもをもつ家庭に対する防災意識の啓発と、学校区の自治組織と連携した活動を行うことによる地域コミュニティの醸成と地域における防災力・減災力の向上が期待できる。



東船岡
空き缶飯作り



上杉
簡易テント設営

1. 企画

(1) 事業実施の背景

本県では、自然災害に対する防災教育及び防災体制の再構築が喫緊の課題となっており、地域や各学校の特性に応じた防災体制の強化に取り組んでいる。防災教育については、学校教育のみならず、社会教育の視点から体験的に学ぶことが、生涯にわたる防災意識や災害に対応する力を高め、ひいては地域全体の防災力の向上に貢献するものと考え、昨年度に引き続き、文科省より委託を受け、本事業を実施した。

(2) ねらい

取組の2年目となる今年度は、地域レベルでの防災教育の普及・啓発をねらいに、地域に根付いた活動を展開するおやじの会を実施主体とし、災害時に避難所となる場合が多い学校を実施場所として、諸団体と連携した形で防災キャンプを行った。避難生活体験型のキャンプを通して、自他の命を守るためのとるべき行動を決定する判断力を養うとともに、制限された生活環境の中で生き抜くための知識や技能を学ぶことをねらいとした。

2. 事業概要

(1) 運営体制

事業を推進する県生涯学習課、各おやじの会担当者からなる県実行委員会を組織。防災キャンプの実施主体となる各おやじの会の小学校区に企画運営委員会を組織して実施。

◎県実行委員会

○企画運営委員会
(東船岡おやじが楽しむ会)
・楽しむ会会員 ・学校職員
・消防関係者 ・柴田町職員

○企画運営委員会
(上杉チャネル)
・上杉チャネル会員
・学校職員 ・消防関係者
・自治会関係者 ・地元商店街

(2) 開催実績

| 月 日 | 内 容 |
|----------|---|
| 5月31日(金) | 防災キャンプ推進事業第1回県実行委員会(事業概要説明) |
| 6月 4日(火) | 第1回企画運営委員会【東船岡おやじが楽しむ会】(組織・スタッフ・スケジュール等) |
| 7月 7日(日) | 第1回企画運営委員会【上杉チャネル】(協力店実地踏査, 町内会長あいさつ等) |
| 7月11日(木) | 第2回企画運営委員会【東船岡おやじが楽しむ会】(参加者確認, スケジュール, 役割等) |
| 7月19日(金) | 第2回企画運営委員会【上杉チャネル】(準備状況, 役割分担等確認等) |
| 7月27日(土) | 防災キャンプ【東船岡・上杉】(1日目) |
| 7月28日(日) | 防災キャンプ【東船岡・上杉】(2日目) |
| 8月 4日(日) | 第3回企画運営委員会【上杉チャネル】(反省会) |
| 8月25日(日) | 第3回企画運営委員会【東船岡おやじが楽しむ会】(反省会) |
| 1月15日(水) | 防災キャンプ推進事業第2回県実行委員会(フォーラムについて) |
| 1月31日(金) | 体験的に学ぶ防災教育推進フォーラム |

3. 防災キャンプ実施概要

【実践1】

【東船岡おやじが楽しむ会】○参加者数28人【9家族(大人11人, 子ども17人)】スタッフ12人
会場校である東船岡小学校校長やPTA会長, 東船岡おやじが楽しむ会から構成される企画運営委員会を組織。3
回の委員会を開催して本キャンプを実施した。

実施にあたり, 柴田町及び柴田町教育委員会から発電機, ランタン, シュラフ等の物品を借用。

キャンプに係る役割及び講師は以下のとおり。

- (1)柴田町教育委員会生涯学習課職員・・・空き缶飯・バウムクーヘン作り
- (2)地元住民(柴田町星を見る会代表, 行政区長)・・・星座観察, 過去の災害についての講話
- (3)大河原教育事務所社会教育主事・・・生活不活発病を防ぐための軽運動
- (4)柴田町立東船岡小学校・・・会場提供, 子どもたちの活動補助
- (5)柴田町立東船岡小学校父母教師会・・・参加の呼びかけ

【1日目】

毎年行っている地区子ども会の球技大会後に大地震発生, 町の災害対策本部の命令から, 小学校体育館が避難
所となる設定となっている。小学校校舎に飲料水等の救援物資が届き, それらを避難所となる体育館に搬入するこ
とを体験。主な活動は非常食作り。バウムクーヘン作りと空き缶を利用した炊飯体験を行った。電気やガスが使用
できない状況では, 炭火等が活用できることを知り, 熱を加えることにより粉ものやお米が食べやすいように調理で
きることを学んだ。夜は星座観察の予定であったが, 雨天となったため, 体育館内で星座について話を聴き, 星
座の位置から方位を確認できることを学んだ。その後, ダンボールを活用して各々寝床づくりに挑戦した。

【2日目】

朝食は, アルファ米と缶詰の非常食体験。缶切りに苦労する子どもたちも見られたが, 貴重な体験となった。朝食後
は, 生活不活発病を予防するための軽運動を行った。レクリエーション的な要素を盛り込んだので, 参加者も楽しく
体を動かすことができた。最終プログラムは自分たちが生活する地域の過去の水害について行政区長さんからお話
をいただいた。その後, キャンプのまとめを行い, 2日間の全日程を終えた。

【参加者の感想】

- 防災を意識したキャンプ, 初めてでしたが勉強になりました。(ロープを使った救助や担架)
- 子供たちを実際にどのように動かすかということ, 本番の時は考える必要があると感じました。
- 子供たちに仕事を与えることも大切だと感じました。特に朝は起床から朝食まで何かしら仕事を与えられるとい
いかと思いました。
- 大人のコミュニケーションを図るために, バウムクーヘンづくりのような作業は, とても有効だと思いました。

【実践2】

【上杉チャネット】○参加者数199人(児童116人, 保護者83人) スタッフ15人
実施主体となる上杉チャネット会員から構成される企画運営委員会を組織。数回の打合せ会議を開催して本
キャンプを実施した。

実施にあたっては, 以下の団体からご協力をいただいた。

- (1)上杉山通小学校(学校施設借用(事前会議, 当日), 参加申し込み等受付, 当日参加協力 他。
- (2)子供110番協力店(24店舗)・・・訪問受け入れ, 防災クイズの出題(実行委員会で事前に準備)
- (3)上杉地区連合町内会・・・各町内との連絡調整, 炊き出し用大鍋貸与(当日は使用せず)
- (4)上杉地区内町内会(6町内会会長)・・・訪問受け入れ, お話の処。
- (5)青葉消防団中央分団・・・ボンファイヤー警戒, 防災講話・講習
- (6)青葉区中央市民センター・・・ジュニアリーダー派遣
- (7)上杉山通小学校PTA・・・PTA腕章貸与, 全般協力
- (8)富沢小学校教頭・・・テント(30張)の貸与
- (9)早坂サイクル商会・・・自転車安全教室

【1日目】

災害時の複雑な状況において臨機応変に対応するには, 日頃からのFace to Faceな繋がりを醸成しておくことが
重要であると考え, メイン企画「探検こども110番」を実施した。110番店は防犯を主たる目的とするが, 災害非常
時においても総合防災子ども緊急避難所として子どもたちが駆け込めるようにと考え, 110番店に感謝状や手作り
色紙を手渡すことで, Face to Faceな関係(保護者含)の醸成を目指し, さらに防災クイズ(仙台市防災副読本参
考)に答えることで防災意識の向上を目指した。また, 町内会長宅を訪問し, 町内会にまつわる話や防災の話を聞
く機会を設定し, 探検中に子ども目線での危険箇所チェックも行うようにした。地域の方とふれあう活動, 地域を知
る活動のまとめとして発表会を実施し, 「探検こども110番」で見聞きしたことの整理と復習を行った。他に, ボン
ファイヤーの消火をバケツリレーで実施(計画), テント設営講習, 体育館就寝体験。

【2日目】

朝食はアルファ米による非常食体験, その後, 自転車安全教室を実施し, アンケートを行って全日程を終えた。

【参加者の感想】

- 防災についてのクイズをして防災についてよく学びました。
- 6年生が率先して小さい学年の子どもの面倒を見てくれました。
- 防災について理解を深められたので, これからも防災プログラムを続けてほしい。

4. 普及啓発の実施概要

①防災キャンプ実施前

・防災キャンプ開催について、県政記者クラブあて記事の投げ込みを通じて広く周知する。

②防災キャンプ実施後

・各キャンプ報告書(PDF版)を作成し、本課HPに掲載し、各市町村教育委員会、県内小中学校・高等学校、青少年教育団体等に周知する。

・フォーラム開催後、報告書(PDF版)を作成し、県立自然の家で実施可能な防災体験教育プログラムと併せ、本課HP等を通じて広く周知する。

5. 成果と課題

(1) 事業成果

○いざという時、(制限された生活環境の中で)自分が生きていくために、どのようにして食事をとるのかということを経験させることができたことはたいへんよかった。また、缶切りなど、普段したことのないことをキャンプを通して経験できたこともよかった。

○在宅避難を想定し、家庭にある器具や食材を活用して食べ物を作る経験(バウムクーヘン作り)は、日常生活の中からは浮かびにくいアイデアであり、こういった調理も可能であることを親子で体験できたことが成果の1つである。

○事業を通して、学校、地域、保護者、世代を超えて体験型の防災訓練体験をすることができ、子どもたちの顔の見える関係づくりができたことがよかった。これらの事業で培われた関係が、万が一の事態が生じた場合の地域防災力の基盤となると考える。

(2) 事業運営上の課題・留意点

▲2日目のプログラムについては特に、参加者の発達段階や体力的な面に配慮し、無理のない内容としたい。

▲荒天時のプログラムは作成していたが、内容をより具体的に計画しておく必要があると感じた。

▲災害は、いつ発生するかわからないので、事前準備よりも、学校にあるものだけ、または、各家庭から持ち寄って実施することも現実的な取組として考えられる。

▲基調講演において、体験的な防災教育が有効であることを理論的に示していただき、実践発表を通して、具体的な活動を知り、パネルディスカッションにおいて、「体験と地域連携」がもたらす効果や有用性を明らかにしていくことがフォーラムのコンセプトでもあったのでその具現化が図られるよう入念な準備を心がけたい。

(3) その他

県内における防災教育の取組は、学校教育の指導体制及び内容の充実とともに地域防災体制の強化も進められており、防災教育関連の取組は、本事業に象徴されるように、人と人をつなぎ、地域コミュニティ再生にも大きく寄与するものである。防災教育が特別な取組でなく、日常生活の中で意識化され、浸透し、根付いていくように働きかけていきたい。

6. 団体プロフィール

【東船岡おやじが楽しむ会】

○平成24年度結成。

○活動方針

①地域のおやじたちが自ら楽しく活動すること。

②その様子を子どもたちに伝えること。

③子どもたちに様々な経験をしてもらうこと。

○これまでの活動実績

東船岡秋祭りへの参加「お祭りコーナー」担当

【上杉チャネット】

○今年で14年目を迎えたお父さんたちがメインのネットワーク。

○いつもは控えめなお父さんが音頭をとって、子ども達、お母さん、そして地域のチャンも一緒になって楽しい時間と思い出を共有しようというのが目指すところ。

○主な活動

・仙台青葉まつりでの雀踊り参加(上杉山雀 絆)

・GAKKOUへ泊まろう

・チャンと遊ぼう!

・上杉地区夏まつりでの模擬店

・上杉中央商店会七夕飾り用竹伐り協力